

# インフラ 「自分ごと」 シンポジウム

～人口減少と技術者不足の時代を乗り越えるために～

■日時：2026年4月16日（木）13時～16時

■形式：ハイブリッド

対面 | 土木学会 講堂（東京都新宿区四谷1丁目無番地）

オンライン | zoomウェビナー

## 【第一部】活動報告と基本的な視点の紹介

○趣旨説明と活動報告：佐々木葉（早稲田大学）

○基調報告1 小池淳司（神戸大学）

「インフラ・国土と「自分ごと」の距離」

○基調報告2 岩城一郎（日本大学）

「書籍の反響から考えるインフラの自分ごと化」

## 【第二部】パネルディスカッション

○話題提供

中島敬介（土木学会事務局）

「自分ごとにするとは何か」

浅野和香奈（アスパル・ワークス）

「福島県平田村発！橋のセルフメンテナンスモデル」

中村晋一郎（名古屋大学）

「市民力で都市の川を里川にカエル」

加藤隆（大成建設）

「現場のことをもっと知っていただくために」

松田曜子（京都大学）

「トリアージを考える」

平野勝也（東北大学）

「現場からしか社会は変わらない」

○パネルディスカッション

コーディネーター：佐々木葉（前掲）＋話題提供者

土木学会では、2025年2月26日に発出した「下水道に起因する道路陥没事故をうけての土木学会会長から会員の皆さんへのメッセージ」に対応した議論の場として、「インフラメンテナンス&マネジメントのためのオール土木学会とりぐみ検討会」、通称「インフラ自分ごと検討会」を立ち上げ、メンバーによる議論を重ねてきました。

高度成長期に作られた膨大なインフラの耐用年数が人口減少と技術者不足の時代に訪れます。インフラ崩壊、インフラマネジメントの時代なのです。こうした時代を乗り越えるには、より多くの土木技術者そして市民が少しでもインフラを「自分ごと」として捉え、適切なインフラマネジメントを行っていくほかありません。インフラを「自分ごと」として捉える人が少なく、多くの人が「無関心」あるいは「他人ごと」な状況では、適切なインフラマネジメントを展開・実施することも不可能です。適切なインフラマネジメントを進めていくためには、インフラを「自分ごと」として、すでに始まっている各地・各種の現場で取り組みを広げていくことがとても大切です。

本シンポジウムでは、人口減少、そして技術者不足の時代に立ち向かう、それぞれの技術者・市民が、インフラを「自分ごと」としていくためにできることは何か、その力を結集していく方法はどのようなものか、参加者のみなさまとともに考えます。